校長室だより～燦燦～ №７６９

どん底

2023.6.12

この前、たまたまある諺と出合った。「どん底に落ちたら、掘れ」である。これは、イタリアのことわざである。日本であれば、どん底に落ちたら、あとはもう上がるしかないとなる。だが、イタリアでは、そこから掘るという。

どういうことなのだろうか。どん底に落ちたときというのは、自分を深掘りして学びを得る、気がつくチャンスであるということだそうだ。今まで生きてきて「どん底だな」と思ったことは、どのくらいあっただろうか。人は、どん底の一歩手前でも、どん底だと思ってしまう傾向があるように思う。よく「最悪」という言葉を聞く。いとも簡単に、この言葉を使うようになった。最悪とは、最も悪いと書く。実際は、たいしたことはないのだが、いとも簡単に最悪と使う傾向がある。

どん底のときは、本当にきつかったから戻りたくはない。しかし、その時期を振り返ると、学びのチャンスであったことがわかる。そのどん底がなかったら、今の自分はない。振り返ってみると、あのときは辛かったし、人生のどん底だと思った。だが、それがあったから今があると思える。どん底とは、そういうことだろう。

どん底に落ちたら、通常は上がることを考えるだろう。落ちた分を挽回しようとする。元に戻ろうとする。ところが、そうではなく、さらに掘って下に行こうというのである。このへんがイタリアらしい。実は、奥深い。

雑誌や書籍、マスコミなどに登場する著名人、企業人などには、どん底を経験している方が多いように思う。それだけ、学びや気づきがあったということだろう。どん底までいったから、わかったことがあるのだろう。

自分のことを考えてみた。辛かったこと、苦しかったことは、いくらでもある。教員になってから、ずっとそんな感じである。だからといって、どん底かというとそうは思ってはいない。そう簡単に、どん底を経験できるとは思ってはいない。辛いとか、苦しいとかは、自分が決めることである。同じような状態に置かれても、辛くも苦しくもない人もいるかもしれない。ところが、どん底となると、誰が見ても大変な状況なのではなかろうか。

同じような諺や格言は他にもある。要は、一見、悪いようなこと、うまくいかないこと、不幸に思えることでも、見方や考え方を変えれば、チャンスだったりするということだろう。「待ってましたよ不幸」というぐらいの考え方の人もいる。

そこまでは思わないが、ここのところは、嫌なことやうまくいかないこと、辛いことがあっても、起きたことには必ず意味があると考えるようにしている。待ってはいないが、「来たか」ぐらいには思えるようになってきた。

では、これからどん底を経験するときが来るのだろうか。それは、わからない。ここからでは、さすがに辛いとは思う。とりあえず、窮地に陥ったら、這い上がるのではなく、まずは掘ってみようと思う。